

論 文

大学生の自校史教育受講に対する期待と需要に関する考察

小宮山 道 夫

はじめに

広島大学文書館では、自校史教育授業「広島大学の歴史」を教養教育の選択必修プログラムである総合科目のひとつとして平成一三(二〇〇一)年より提供してきた。この「広島大学の歴史」は、正確には広島大学五〇年史編集室当時に開始したもので、平成一六年の文書館創設とともに文書館が引き継いだ授業である。五〇年史編集専門委員委員であった小池聖一文書館長(当時総合科学部助教授)の発案のもと、頼祺一委員長(当時文学研究科長)が代表者となって当時の広島大学五〇年史編集専門委員会幹事会有志の全面的協力を得て、実現した授業科目である。

自校の歴史を題材にして行う授業を開講する大学は、近年増加しており、自校史教育あるいは自校教育として用語としても定着しはじめた感がある。しかし自校史教育が各大学において正規の科目として提供されはじめたのはそう古い話ではない。明確な建学の精神を持ち、大学アイデンティティの確立、共有や継承に対して最も意識が高いと

思われる私立大学においてさえも、平成九年に明治大学と早稲田大学が行った授業が最初である。^①国立大学における自校史教育の実践は、九州大学が平成九年にその先鞭をつけ、名古屋大学が平成一一年から実施、そして広島大学の着手と続いた。全国の大学を対象に自校教育の調査を実施している大川一毅の平成二〇年八月の調査に拠れば、七五二大学のうちの約一八パーセントにあたる一三六大学が何らかの自校教育を実施しているという。^②大川の定義では「自校に関わる理念、沿革、特性、現状、課題、等を中心的な教育内容、教育題材として実施する授業科目」を自校教育としているため、自ずとその対象は拡がり実施大学数は増加する。また、調査自体も回答した大学が必ずしも授業実施担当者の確認をとって回答しているかどうか定かではないため、その実態を把握できているとは言い切れない可能性もある。しかしそれでも分類を「大学史(自校史)教育」として回答した大学だけでも、国立大学では北海道大学、神戸大学、島根大学の三校、公立大学では北九州市立大学一校、そして立教大学を含む五校の私立大学の計九校となっている。また分類を「自校理解教育」として回答した

二七大学三一授業には先述の明治大学や広島大学が含まれており、自校史教育に類する授業を実施している大学は二〇校を下らないものと推察できる。これが多いか少ないかといえれば判断は分かれるだろう。

しかしこの一〇年ばかりで各大学が正規の授業科目として自校史教育を提供している点は重要であるし、実施した大学が何らかの意義を認めているからこそ他大学にも広まっているものと理解できる。

そのような中で、自校史教育を対象にした実践報告や論説も増加しはじめている。国立情報学研究所論文情報ナビゲータ (C i n i i) に登録されている「自校史教育」論説は一二件、「自校教育」に枠を広げるとさらに三一件 (うち一八件は三種の特集記事) の論説が確認できる。³⁾ 着実に自校史教育の実践が重ねられているとともに、今後の課題を含めた意欲的な記事も見える。しかしながらそれらは基本的に教員側が提供した実践例や教員や大学が提供する意義や効用を説く論説となっており、意外にも受け手である受講生の授業に対する期待や需要について分析したものはない。そこで本稿においては、これまで筆者らが提供してきた一〇年間の自校史教育に際して蓄積してきた受講生のアンケートデータから、学生たちの自校史教育に対して抱く期待やそこに存在する需要について分析することを通じ、受講生にとっての自校史教育の意義を考察するものである。

一・総合科目「広島大学の歴史」の位置づけについて

1 授業開設の企画意図

自校史教育授業「広島大学の歴史」を企画した背景のひとつには、平成一一(一九九九)年に大学が五〇周年記念式典を終えたことで、当時の五〇年史編集専門委員会が大学執行部の間に年史編纂への関心が失われつつある雰囲気を感じ取っていたことがあった。このため年史編纂の意義を明らかにする取り組みとして、委員会では自校史授業の開設に至った。それはひとつにはそれまでの年史編纂の過程で得た少なからぬ成果を、一般に入手の難しい非売品の記念誌としてではなく、積極的に学生に還元したかったこと、そして、それにより歴史的事実に基づいた広島大学への認識を高めることを通じて学生自身が豊かな大学生活を送るきっかけを提供したいこと、また、広島大学の歴史というコンテンツが実際にどの程度学生の関心を引き起こすものであるかを委員会幹事自身が認識したかったためである。

2 総合科目の特徴

自校史教育授業「広島大学の歴史」は、広島大学の教養教育科目(開設当時は教養的教育科目)の一般科目内の科目区分「総合科目」の授業科目のひとつである。総合科目は旧教養部時代の昭和四六(一九七二)年より、一般教育の人文、社会、自然の各分野にまたがる複合領域の科目として導入されてきた科目群で、平成三年の大学設置基準改正、いわゆる大綱化以降の教養教育改革の中でも、広島大学の教養的教育

における目標の三本柱のひとつ、「学際的・総合的な教育（学際性・総合性）」を目指す重要な科目として扱われてきた。本来「特定のテーマについて個別領域を超えた広い視野で、全体像を把握する姿勢を養う。」ことを教育目標に掲げ、授業を「専門領域の異なる複数の教官で行う。」と実施方法に定めている。⁵⁾総合科目は選択必修科目であり、年度によって開講している科目数にはばらつきがあるものの、学生は半期で一五種類程度開設されている授業科目の中からひとつを選択し、卒業までの間に二単位を履修することが義務づけられている。専門教育との兼ね合いから、多くの学生は一〜四セメスターの間に総合科目を履修するのが通例となっている。しかしながら総合科目が原則として月曜日の三・四時限（一〇時三〇分〜一二時〇〇分）に割り当てられている上、一・二セメスターには同じ時間帯に学部指定の授業が入ることがあるなど、実質的には三・四セメスターで履修するケースが多い。

「広島大学の歴史」を初めて開講した平成一三（二〇〇一）年度後期には、次の一五科目が開講していた。⁶⁾

こころの諸相（一六五）、演劇と映画（一三五）、交通社会論（四四）、口腔の科学：食生活と全身の健康（四七）、広島大学の歴史（四一）、実社会と法学（一〇三）、職業選択と自己実現B（一三八）、親族・家族から見た伝統と現在の諸相（一八）、人間と環境（二三）、水の総合科学（一〇六）、青い惑星（一〇）、戦争と平和に関する総合的考察B（二六）、大学論（四五）、地球環境問題を考える（二二）、未来型食品の創製（二三）——受講生総計九二八人

また、「広島大学の歴史」の開講を前期に変更したのは平成二〇年からのことである。この時は二四科目が開講していた。

アートの世界と哲学（四一）、インターシップとキャリアデザイン（四二）、キャンパスの自然環境と環境管理（一一三）、こころの諸相（一二二）、ヒトと微生物の関わり（一六八）、ヒロシマ学（四〇〇）、フィールド科学入門（三〇）、ベンチャービジネス論（一三〇）、演劇と映画（二〇七）、学問とのであい（二六〇）、現代の消費生活（二〇八）、現代の物質観（五八）、現代経済を考える（一三三）、現代社会とボランティア活動（一九）、現代世界の成立と課題（三三）、広島大学の歴史（二七九）、国際協力を考える（六五）、自然界における左と右（七二）、職業選択と自己実現（一〇六）、人間と運動（九二）、世界の自然と環境問題（一七七）、生命科学（六二）、大地と家畜からのめぐみ（農場体験）（一七）、文化と環境（二八）——受講生総計二、六五七人

選択必修科目ということもあり、受講生の多くは前期に集中する傾向がある。

3 授業内容

授業内容は広島大学五〇年史編纂の成果をふまえ、全体構成としては編年的に組みながら、一つ一つの授業は特定テーマで戦前の前身諸学校の歴史を含む広島大学の現在までの歩みを盛り込むことを基本とした。これにより、学生たちが広島大学の現代的な問題や現在自らの属する環境について、自らの経験に引きつけて考察することができるよう配慮している。平成二二年度のシラバスには次のとおり記載し

ている。

授業の目標・概要等

広島大学の現在と未来を考える視座を提供すると共に、広島大学の一員としてのアイデンティティーの確立に役立ててもらおう。本講義では、写真やビデオ、そして、現物の資料等を用いて「広島大学の歴史」を学ぶことによって、広島大学それ自体を学問とする「広大学」の創設を行う。

授業計画

- 第一回 歴史に学ぶ広島大学（小池聖一）
- 第二回 広島大学の源流（酒井真）
- 第三回 原爆と広島大学（酒井真）
- 第四回 新制広島大学はこうして生まれた（石田雅春）
- 第五回 広島大学の入試と学生たち（小宮山道夫）
- 第六回 広島大学の理念と象徴（石田雅春）
- 第七回 学長たちの横顔（一）（小池聖一）
- 第八回 広島大学の学生生活（小宮山道夫）
- 第九回 学長たちの横顔（二）（石田雅春）
- 第一〇回 統合移転でつづる広島大学（石田雅春）
- 第一一回 広島大学の教師たち（小宮山道夫）
- 第二二回 総合科学部の光と影（小池聖一）
- 第二三回 国際化社会と広島大学（小宮山道夫）
- 第二四回 広島大学とはどういう大学か（小池聖一）
- 第二五回 試験期間中（レポート受付開始日）（小宮山道夫）

授業終了後に毎回感想の提出を、また期末試験に代えてレポートの提出を求めます。

教科書・参考書等

授業担当者が、それぞれプリント等を用意して配布します（参考書等は、講義中に適宜紹介します）。入学時に大学から配布された小冊子『広島大学の歴史』を使用する（法人本部の広報または各学部の教育支援室等で入手可能です）。広大生協または紀伊国屋Bookwebにて販売中の広島大学文書館編『広島大学の五十年』（広島大学出版会、一二〇〇円（税込））を購読・携帯することが望ましい。

授業で使用するメディア・機器等 テキスト、配付資料、音声教材、

映像（ビデオ／PC／その他画像資料）

予習・復習へのアドバイス

- 第一回 広島大学文書館編『広島大学の五十年』を手に入れてみよう
- 第二回 広島大学の前身校を調べてみよう
- 第三回 原爆被爆に関する本を一冊でも読んでおこう
- 第四回 昭和二〇年代の人々の生活を調べておこう
- 第五回 入試がいつから始まったのか興味を持っておこう
- 第六回 広島大学の理念五原則が言えますか？
- 第七回 初代学長は誰でしょう
- 第八回 学生生活をおくるうえで必要なことを思い起こしておこう
- 第九回 「大学紛争」について調べておこう
- 第一〇回 東千田公園（広島市中区）に一度行っておこう

歴史」開講実績一覧

平成18(2006)年	平成19(2007)年	平成20(2008)年	平成21(2009)年	平成22(2010)年
小宮山 道夫 [文書館]	小宮山 道夫 [文書館]	小宮山 道夫 [文書館]	小宮山 道夫 [文書館]	小宮山 道夫 [文書館]
歴史に学ぶ広島大学 小池 聖一 [国際協力研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖一 [国際協力研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖一 [国際協力研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小宮山 道夫 [文書館]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖一 [国際協力研究科]
原爆と広島大学 菅 真城 [大阪大学文書館設置準備室]	広島大学の源流 酒井 真 [非常勤]	広島大学の源流 酒井 真 [非常勤]	広島大学の源流 酒井 真 [非常勤]	広島大学の源流 酒井 真 [非常勤]
広島大学の源流 小宮山 道夫 [文書館]	原爆と広島大学 酒井 真 [非常勤]	原爆と広島大学 酒井 真 [非常勤]	原爆と広島大学 酒井 真 [非常勤]	原爆と広島大学 酒井 真 [非常勤]
新制広島大学は こうして生まれた 菅 真城 [大阪大学文書館設置準備室]	新制広島大学は こうして生まれた 石田 雅春 [文書館]	新制広島大学は こうして生まれた 石田 雅春 [文書館]	新制広島大学は こうして生まれた 石田 雅春 [文書館]	新制広島大学は こうして生まれた 石田 雅春 [文書館]
広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]
広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の理念と象徴 石田 雅春 [文書館]	広島大学の理念と象徴 石田 雅春 [文書館]	広島大学の理念と象徴 石田 雅春 [文書館]	広島大学の理念と象徴 石田 雅春 [文書館]
広島大学の理念と象徴 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 石田 雅春 [文書館]
学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖一 [国際協力研究科]	学長たちの横顔 飯島宗一から牟田泰三まで 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 飯島宗一から牟田泰三まで 石田 雅春 [文書館]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]
引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 小宮山 道夫 [文書館]	総合科学部の光と影 小池 聖一 [国際協力研究科]	総合科学部の光と影 小池 聖一 [国際協力研究科]	学長たちの横顔 飯島宗一から牟田泰三まで 石田 雅春 [文書館]	学長たちの横顔 飯島宗一から牟田泰三まで 石田 雅春 [文書館]
学長たちの横顔 飯島宗一から原田康夫まで 石田 雅春 [文書館]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 石田 雅春 [文書館]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 石田 雅春 [文書館]
総合科学部の光と影 小池 聖一 [国際協力研究科]	広島大学とは どういう大学か 小池 聖一 [国際協力研究科]	補講 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]
広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]	レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]	国際社会と広島大学 小宮山 道夫 [文書館]	総合科学部の光と影 小池 聖一 [国際協力研究科]
広島大学とは どういう大学か 小池 聖一 [国際協力研究科]		広島大学とは どういう大学か 小池 聖一 [国際協力研究科]	広島大学の卒業生たち 石田 雅春 [文書館]	国際社会と広島大学 小宮山 道夫 [文書館]
レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]		レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学とは どういう大学か 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学とは どういう大学か 小池 聖一 [国際協力研究科]
			レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]	試験 小宮山 道夫 [文書館]

表1 教養教育 総合科目「広島大学の

	平成13(2001)年	平成14(2002)年	平成15(2003)年	平成16(2004)年	平成17(2005)年
授業 代表者	頼 祺 一 [文学研究科]	頼 祺 一 [文学研究科]	頼 祺 一 [文学研究科]	小池 聖 一 [国際協力研究科]	小池 聖 一 [国際協力研究科]
1	歴史に学ぶ広島大学 頼 祺 一 [文学研究科]	歴史に学ぶ広島大学 頼 祺 一 [文学研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖 一 [国際協力研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖 一 [国際協力研究科]	歴史に学ぶ広島大学 小池 聖 一 [国際協力研究科]
2	広島大学の源流 大林 正 昭 [教育学研究科]	広島大学の源流 大林 正 昭 [教育学研究科]	資料展「広高26年の歴史」 見学と広島市内探訪※ 小宮山 道夫 [文書館設立準備室]	広島大学の源流 大林 正 昭 [教育学研究科]	広島大学の源流 小宮山 道夫 [文書館]
3	新制広島大学は こうして生まれた 大林 正 昭 [教育学研究科]	原爆と広島大学 菅 真 城 [50年史編集室]	広島大学の源流 大林 正 昭 [教育学研究科]	新制広島大学は こうして生まれた 大林 正 昭 [教育学研究科]	新制広島大学は こうして生まれた 菅 真 城 [文書館]
4	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]	新制広島大学は こうして生まれた 大林 正 昭 [教育学研究科]	新制広島大学は こうして生まれた 大林 正 昭 [教育学研究科]	原爆と広島大学 菅 真 城 [文書館]	原爆と広島大学 菅 真 城 [文書館]
5	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖 一 [総合科学部]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]	原爆と広島大学 菅 真 城 [文書館設立準備室]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館]
6	学長たちの横顔 飯島宗一から原田康夫まで 菅 真 城 [50年史編集室]	学長たちの横顔 飯島宗一から原田康夫まで 菅 真 城 [50年史編集室]	広島大学の理念と象徴 菅 真 城 [文書館設立準備室]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]	広島大学の学生生活 小宮山 道夫 [文書館]
7	学生たちの群像 一体験的學生論一 頼 祺 一 [文学研究科]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖 一 [総合科学部]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]
8	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [50年史編集室]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [50年史編集室]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖 一 [国際協力研究科]	広島大学の理念と象徴 菅 真 城 [文書館]	広島大学の理念と象徴 菅 真 城 [文書館]
9	広島大学を担った教師たち 小宮山 道夫 [50年史編集室]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [50年史編集室]	学長たちの横顔 一飯島宗一から 原田康夫まで一 菅 真 城 [文書館設立準備室]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖 一 [国際協力研究科]	学長たちの横顔 初代学長森戸辰男 から川村智治郎まで 小池 聖 一 [国際協力研究科]
10	図書館の歴史と司書のつぶやき 一蔵書300万冊と コンピュータの狭間で一 板垣 護 人 [附属図書館]	図書館の歴史と司書のつぶやき 一蔵書300万冊と コンピュータの狭間で一 板垣 護 人 [附属図書館]	広島大学の入試と 学生たち 小宮山 道夫 [文書館設立準備室]	総合科学部の光と影 小池 聖 一 [国際協力研究科]	学長たちの横顔 飯島宗一から原田康夫まで 菅 真 城 [文書館]
11	総合科学部の光と影 一教養部改革と 総合科学部創設一 小池 聖 一 [総合科学部]	広島大学とは どういう大学か 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]	総合科学部の光と影 小池 聖 一 [国際協力研究科]	学長たちの横顔 飯島宗一から原田康夫まで 菅 真 城 [文書館]	総合科学部の光と影 小池 聖 一 [国際協力研究科]
12	原爆と広島大学 菅 真 城 [50年史編集室]	レポート受付 小宮山 道夫 [50年史編集室]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館設立準備室]	引越しの歴史、 統合移転でつづる広島大学 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]	広島大学の教師たち 小宮山 道夫 [文書館]
13	広島大学とは どういう大学か 羽田 貴 史 [高等教育研究開発センター]		学生たちの群像 一体験的學生論一 頼 祺 一 [文学研究科]	広島大学とは どういう大学か 小池 聖 一 [国際協力研究科]	広島大学とは どういう大学か 小池 聖 一 [国際協力研究科]
14	レポート受付 小宮山 道夫 [50年史編集室]		広島大学とは どういう大学か 小池 聖 一 [国際協力研究科]	レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]	レポート受付 小宮山 道夫 [文書館]
15			レポート受付 小宮山 道夫 [文書館設立準備室]		

備考 ※印は正規表現では「旧制広島高等学校創立80年記念資料展「広高26年の歴史」見学と広島市内の広島大学前身校関連地の探訪」。

第一一回 広島大学の教員数がどのくらいか調べておこう

第二二回 総合科学部がどのような学部か身近な人に聞いておこう

第二三回 広島大学と国際社会の繋がりについて調べておこう

第二四回 広島大学への改革案を提案してみよう

第二五回 レポートは、全一四回の講義終了後に全講義から一

テーマを選び、一、六〇〇字程度でまとめた受講生独

自の考察を提出してもらいます。講義内容を単に要約

したもの、受講生本人以外の考察（Wikipedia

等のWeb上の情報を含む）の引き写しは不可としま

すので、くれぐれも注意しましょう。

履修上の注意受講条件等 受講希望者多数の場合は、受講制限を行

うことがありますのであらかじめご了承ください。講義中に私語を

するなど、他の受講者に迷惑をかける方には退出頂いています。

成績評価の基準等 レポート 三〇％（程度）、平常点（出席状況）

七〇％（程度）により行います。

メッセージ 自分と自分の大学に関心を持ち、考えることで大学生

活を有意義に過ごしてもらいたい。

その他 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/>

一〇年間の授業構成は表一に示した。開講当初は七名の教職員で講義を担当していたが、講義担当者が退職により減じていったため、文書館関係者四名で実施するようになった。初期の各講義担当者の個性を含めバラエティに富んでいた授業内容と比べると魅力は減少したと

もいえるかもしれない。しかし一方で担当者間の内容の重複を最小限に抑えることができ、全体の連関性が高まることに通じたといえる。

4 右肩上がりの受講者数

平成一三（二〇一〇）年の開設初年度に四一名の受講登録者で始まった本講義は、平成二二年度で一〇年目を迎え、学内最大収容定員の講義室において五四〇名が受講するマンモス講義へと変容している。

受講者数の一〇年間の推移は表二に示したとおりである。三年目の平成一五年から一〇〇名程度で安定するかに見えた受講生は、八年目の平成二〇年に開講時期を前期に切り換えてから大きく変動した。前年比一・五倍に増加した後、九年目に入ってから前年比二・八倍を超え、一〇年目にはついに教室の最大定員に達した。偶然にも定員数と一致したために問題はなかったが、平成二二年度には受講者抽選や複数教室での同時開講など何らかの対応を迫られることが予測できる。

本稿ではこれほどの規模にまで膨れあがることとなったこの自校史教育授業「広島大学の歴史」について、平成一三年度から平成二二年度までの一〇年間を対象に、アンケートの受講理由に対する回答をもとに、受講生が本講義に対して抱く期待を分析し、その需要と志向性を明らかにすることとする。

なお、「広島大学の歴史」の一〇年間を振り返った報告書『広島大学自校史教育実施報告書 二〇〇一～二〇一〇』を分冊形式で順次刊行している⁷⁾。詳細なデータについてはそちらを参照願う。

表2 総合科目「広島大学の歴史」受講者数の推移

年 度	総数	総科	文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	生
平成13年	41	3	6	6	1	7	2	6	1	0	8	1
平成14年	30	7	4	2	8	2	0	0	0	0	7	0
平成15年	104	2	13	13	43	10	4	6	0	0	11	2
平成16年	104	6	10	31	20	12	7	2	1	0	12	3
平成17年	90	10	6	32	5	18	5	1	1	0	12	0
平成18年	120	17	12	31	12	9	10	1	1	1	26	0
平成19年	120	7	7	36	8	20	19	3	3	0	17	0
平成20年	179	5	10	24	11	34	28	1	5	0	52	9
平成21年	515	18	30	79	49	38	65	6	4	0	192	34
平成22年	540	13	42	110	52	47	61	3	2	0	168	42
累 計	1,843	88	140	364	209	197	201	29	18	1	505	91
学年当学生数	2,725	142	156	538	216	243	263	296	131	70	561	108
受講生比率	19.8%	9.1%	26.9%	20.4%	24.1%	19.3%	23.2%	1.0%	1.5%	0.0%	29.9%	38.8%
総数比比較	100%	46%	136%	103%	122%	98%	117%	5%	8%	0%	151%	196%

備考 「法」は法学部（昼間コース）と同（夜間主コース）の合計、「経済」は経済学部（昼間コース）と同（夜間主コース）の合計、「医」は医学部（医学科）と同（総合薬学科・保健学科）の合計、「歯」は歯学部（歯学科）と同（口腔保健学科・口腔健康科学科）の合計、「薬」は薬学部（薬学科）と同（薬科学科）の合計をそれぞれ表す。

「学年当学生数」は、平成22年度11月1日現在の在学学生数を4で割った理論値。

「受講生比率」は、平成22年度受講生数の学年当学生数に対する割合。

5 受講生集団の特徴

分析に先立ち、まずは受講生集団について確認しておこう。表二の
 下段には学年当学生数と受講生比率とを示した。学年当学生数とは一
 学年当たりの学生数を試算したもので、平成二二年度現在の在校生を
 四で割った数値である。四年以上の課程を含み、年度によって学生定
 員も若干の変動があるが、部局別の学生数を知る参考にはなるだろ
 う。受講生比率は平成二二年度受講生数の学年当学生数に対する割合
 を示している。五四〇人という平成二二年度の受講生数から考えると
 一学年の一九・八パーセントの学生が本講義を受講していることにな
 り、各部局の学生もこの数値に近ければ近いほど標準的な学生比率で
 あることを示す。これによれば教育学部と経済学部は誤差五パーセン
 ト以内に収まっているので、比率的偏りのない集団と位置づく。一方、
 一九六パーセントに及ぶ生物生産学部や一五二パーセントの工学部、
 一三六パーセントの文学部は比率が過多であり、四六パーセントに過
 ぎない総合科学部や一〇パーセントにも満たない医学部、歯学部、薬
 学部は過少な集団であることがわかる。

図一は受講生の部局別比率を帯グラフにして示したのもである。右
 端に一〇年間の受講者の累計比率と、前述の学年当学生数をもとに算
 出した部局別の標準比率とを示した。前半ではばらついていた部局別
 比率も、受講生の増加に伴い、年を追って標準比率に近づいているこ
 とがわかる。唯一の問題点は医学部、歯学部、薬学部の震地区の学生
 が圧倒的に少ないことであろう。

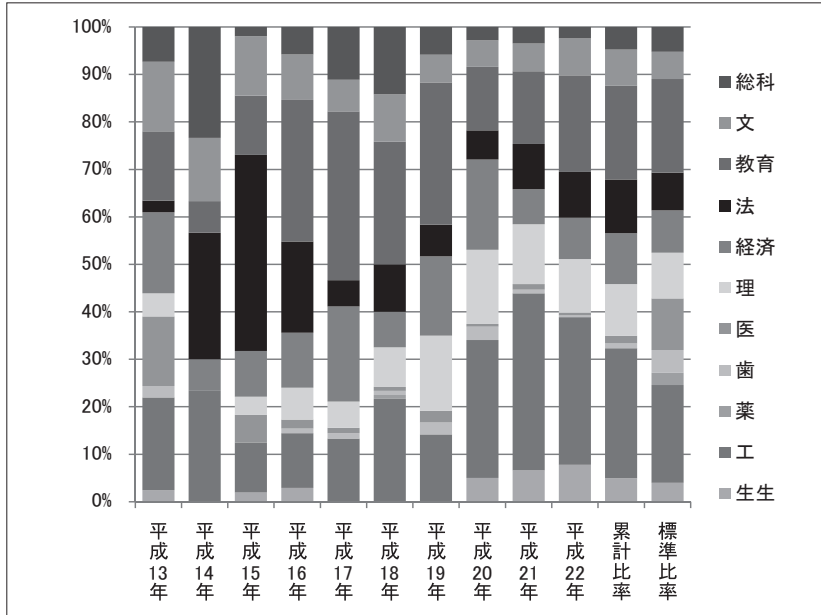


図1 総合科目「広島大学の歴史」受講者部局別比率の推移

二. アンケートの実施方法と回答数について

本講義では、毎回の出欠確認とアンケート回収を兼ねて、二年目の平成一四(二〇〇二)年度から講義専用の独自WEBページを設けている。内容は次のとおりである。

以下の設問に答えてください(●は回答必須項目です)。

- 名前
- 性別
- 学生番号(半角英数字で入力)
- 学年
- 所属学部・学科(類、専攻)
- メールアドレス
- Q一. 今回の講義テーマについて、あなたが受講前に予想していた内容を書いてください。(第一・二回の講義のみは「●Q二. 受講理由を書いてください。」に変更)
- Q二. 今回の講義内容の難易度はどうでしたか。五段階「+2」〜「0」で評価してください(以下同様)。「ラジオボタン」かなり難しかった「+2」難しかった「+1」適度だった「0」易しかった「-1」かなり易しかった「-2」
- Q三. 今回の講義内容は期待通りでしたか「ラジオボタン」期待通りだった「+2」ある程度は期待通りだった「+1」どちらでもない「0」あまり期待通りでなかった「-1」全く期待はずれだった「-2」

●Q 四. 今回の講義内容は興味深いものでしたか「ラジオボタン」

とても興味深かった「+2」興味深かった「+1」どちらでもない「0」あまり興味がわかなかった「-1」全く興味がわかなかった「-2」

●Q 五. 今回の機材の使用など講義方法に工夫を感じましたか「ラジオボタン」

とても工夫されていた「+2」工夫されていた「+1」どちらでもない「0」あまり工夫されていないかった「-1」全く工夫されていないかった「-2」

●Q 六. 今回の講義で使われたプリントおよび資料に満足しましたか「ラジオボタン」

とても満足した「+2」満足した「+1」どちらでもない「0」あまり満足しなかった「-1」全く満足しなかった「-2」

●Q 七. 今回の講義を受けて考えたことを書いて下さい (二〇〇字以上)。

以下の項目の書き込みは任意です。

Q 八. 今回の講義で良かった点があれば書いて下さい。

Q 九. 今回の講義で改善すべき点があれば書いて下さい。

Q 一〇. 今回の講義内容で理解できなかったことを書いて下さい

Q 一一. 今回の講義を受けてもっと詳しく知りたいと思ったことがあれば書いてください

Q 一二. その他今回の講義に関して気づいた点など自由に書いてください。

開講初年度は授業ごとの感想を受講生にメールで提出させることで出席に代えた。二年度以降は各講義中にその回のキーワードを提示し、

そのキーワードをパスワードとしてアクセスする専用WEBページを設け、出席認証を行う形式に変更した。平成一五(二〇一三)年度までは講義実施日の翌日一七時まで、平成二一年度までは翌々日、平成二二年度は三日後までをアクセス期限として指定した。受講者名簿の読み上げで授業時間を無駄にすることもなく、手書きの出席票の配布・回収・判読・電子データ化という無用な労力を割く必要もない。

さらに提出を受けたメールの名簿との照合作業やデータ規格化の切り貼り作業、あるいは無記名メールの処理に悩まされることもない。唯一の欠点といえば、学生が期限までにアクセスし忘れることにより、実際に出席していても欠席扱いとなることや、欠席していてもキーワードを入力さえすれば不正行為が可能であるという不確実性である。このため回答数そのまま実際の出席者数とはならず、数値には現れない出席者と欠席者とがあることは否定できない。しかしながらどの様な欠点確認方法にも欠点はある。改善の余地がある現システムではあるが、大規模講義を運営する上での省力化とアンケート回収によるフィードバックを重視して、現時点では最善の手段として実施している。

なお、前述のとおり初年度のみについては専用WEBページを未作成であったため、講義を受けての感想を受講生にメールにて回答させた。このため受講理由は他の年度のデータのように聴講手続き中の回答ではなく、全講義終了後の回答となっている。

今回の分析には、一〇年間の受講生全一、八六四人分（再履修の重複者六七人、のべ一四八八人分を含む）のデータから二年次生一、五二四人分（同じく四人、のべ八八人分および単位不要または不履修者一五人分を含む）のデータを分析対象とする。これはできる限り受講生の抱えている背景を揃えるためである。このデータをもとに学生たちが自校史教育に対してどのような期待を抱いているのか、また潜在的な需要開拓の余地があるのかについて考察する。なお、学生の文章の引用に当たっては、算用数字を漢数字に直す以外は誤字を含め一切手を加えず、文末に「」を付して所属学部・性別・受講年を示した。所属学部については以下の略称を用いた。

総科：総合科学部、文：文学部、教育：教育学部、法：法学部、
経済：経済学部、理：理学部、医：医学部、歯：歯学部、薬：薬学部、
工：工学部、生：生物生産学部

三. 受講理由について

1 アンケート回答の分類

「広島大学の歴史」の受講理由については、自由記述での回答であるため、分析にあたっては内容を判読して、分類を設けた。全ての回答はおおよそ次の二種類と無回答とに分類することが可能であった。ただし複合的な回答については、重複させて分類した。

一、楽勝と聞いた・思った、二、成績評価方法、三、先輩・友人の推薦、四、面白いと聞いた・思った、五、小池教授の講義、六、

歴史に興味があるから、七、広島大学の学生だから、八、人に説明できるようにになりたい、九、誇りを持ってそうだから、一〇、シラバス等で興味を覚えた、一一、消極的選択、一二、その他
以下、各分類ごとに、分類の基準と具体例を示す。

2 分類一「楽勝と聞いた・思った」

「楽勝と聞いた・思った」は、受講理由に「楽に単位が取れる」や「簡単そう」といった明らかに単位取得が容易と認識している回答についてここに分類した。「ほかにもいろいろ講義があったが、この授業が一番自分にとって取り組みやすそうだったから。」「（経済・男・二〇〇二）、「シラバスにのっている内容を見て楽しそうだったからです。あと、簡単に単位をとれそうだったからです。」「（教育・女・二〇〇五）、「平常点の配点が高く、なおかつ出席確認が授業の感想を Web ページを通じて提出することで行われる事が魅力的と思ったので。」「（工・女・二〇〇九）」「テストが無いらしく、比較的単位が取りやすそうだから。」「（工・男・二〇〇九）、「先輩に「面白くて比較的単位がとりやすい」と勧められたから」「（理・男・二〇一〇）」などの回答がある。

3 分類二「成績評価方法」

「成績評価方法」には、「試験がない」「出席重視と聞いた」あるいは「レポートだったから」など、シラバスに掲載している成績評価方法を肯定的に受けとめているもののうち、「楽勝と聞いた・思った」

に分類した「明らかに単位取得が容易と認識している回答」とは異なる回答をここに分類した。このためこの二つの分類の間に重複はない。「シラバスを見て、総合科目の中で一番身近でおもしろそうだったから。期末試験がないという点にもひかれたから。」〔教育・女・二〇〇五〕、「出席が7割だったため。最初は、もっと重苦しいものだと思ってました。」〔工・男・二〇〇八〕、「シラバスを見て、平常点が七〇%と高く残りの三〇%レポート点であったので、真面目に頑張れば良い成績が期待できると思ったからです。」〔生・男・二〇〇九〕、「数ある総合科目の中で授業内容とか評価方法が自分に一番合っていると思ったから。」〔工・男・二〇〇九〕、「一回のテストではなく出席点やレポートでの評価なので努力がみとめてもらえる授業だと思ったから。」〔生・男・二〇〇九〕、「最初は授業評価の出席率が高いので受講しようと思いましたが今日のガイダンスを聞いて小宮山先生のお話に魅力を感じ、大学についてもっと知りたくなりました。」〔教育・女・二〇〇九〕などがある。

4 分類三「先輩・友人の推薦」

「先輩・友人の推薦」には、先輩や友人から勧められたり誘われて受講したものを分類した。「友達からおすすめだと聞いたので。広大の歴史に興味があったので。」〔法・男・二〇〇三〕、「先輩の評判がよかったため。」〔法・女・二〇〇四〕、「講義内容がおもしろいと先輩たちから聞いていたし、自分が通う大学の歴史や設立の意義について少し興味もあったから。」〔文・女・二〇〇六〕、「初めは他の授業のガイ

ダンスを受けたが、興味を持てず先輩に相談すると、勧められたから。」〔教育・男・二〇〇七〕、「シラバスや先輩の話聞いて、自分の大学生活四年間の生活の基盤となる広島大学の歴史について学ぶには、この講義が最も適していると思ったから。」〔経済・女・二〇〇八〕、「先輩から総合科目は広島大学の歴史がいいと聞いていたから。」〔理・男・二〇〇九〕、「先輩に「面白くて比較的単位がとりやすい」と勧められたから。」〔理・男・二〇一〇〕、「二年度にパッケージ科目の単位を落としてしまい、3セメでの履修を考えた際、同じ学科の先輩に「この授業は授業内容が楽しい。」と教えてもらったので受講を決めました。」〔理・男・二〇一〇〕などがある。

5 分類四「面白いと聞いた・思った」

「面白いと聞いた・思った」には伝聞や第一回の授業を受けて面白いと感じたことを理由にしているものを分類した。「総合科目の単位が必要で、その中で一番おもしろそうだとおもったから。」〔総科・男・二〇〇一〕、「面白いと評判だったから。」〔法・女・二〇〇三〕、「広島大学の歴史(特に工学部)についておもしろいな事が聞けると思ったから。」〔工・男・二〇〇四〕、「自分が通う広島大学の歴史や裏話まで聞くことができたいへん面白いと友達から聞いて、興味を持って受講しました。」〔総科・女・二〇〇五〕、「クラスを間違えていたけど最初数分講義を受けおもしろそうと思い履修しました。」〔理・男・二〇〇五〕、「私は前期に「広島大学のスペシャリスト」を履修し、小池先生と小宮山先生や他の広島大学職員の工夫あふれる授業展開に、大

学に入學して初めて「講義の面白さ」を覚えた。後期も文書館主催の授業「広島大学の歴史」があるので、ぜひもう一度面白い講義を受けたいという意向から、この授業を履修することに決めた。「経済・男・二〇〇七」、「自分の入學した大学の歴史をもっと詳しく知りたいと思ったから。講師の方々の話が面白くてためになると先輩方から聞いていたから。」〔工・男・二〇一〇〕、「非常に面白いと聞いたので受講しました。現に面白かったです。」〔法・男・二〇一〇〕などがある。

6 分類五「小池教授の講義」

「小池教授の講義」には、「広島大学の歴史」の主要教員で人気教員のひとり、小池聖一教授の存在を知っている学生が、受講したいと思ったり、あるいは小池教授の別の授業の中で勧められたなど、小池教授の存在をきっかけに受講した回答を分類した。「去年、小池先生が「政治の世界」でこの総合科目を薦めていらっしやっただので、受講してみようと思いました。」〔法・女・二〇〇三〕、「前の小池先生の「政治の世界」を受講して先生の授業に関心を持ち、総合科目で先生が担当されるという事を知って是非受けてみたいと思った。」〔文・男・二〇〇四〕、「以前にも小池先生の授業を受講してとてもためになったとかんじたため。」〔工・男・二〇〇五〕、「大きい理由はこの授業は平常点の割合がとても高いことです。私はまじめに毎回出席するタイプなので、この授業はとても気質にあっているように感じました。もうひとつはシラバスに掲載されていた講師の先生方に小池先生の名前があったからです。以前オリエンテーションを受けたときに面白い先生

のように思っていたので、今回担当されないとということで、少し残念に思いました。」〔教育・女・二〇〇九〕、「2セメで受講した小池先生のお話がとてもおもしろく、また講義を受けたいと思ったから。」〔法・女・二〇一〇〕などがある。

7 分類六「歴史に興味があるから」

「歴史に興味があるから」には、広島大学の歴史に興味を抱いたり、歴史自体が好きという理由を回答したものを分類した。「広島大学に折角きているが、まったくその歴史についてしらなかつたため、なかなか自分からは調べようという気は起きないものだが、こういう授業があれば、聞くだろうと思って。」〔文・男・二〇〇一〕、「広島大学で学ぶ者として、この大学の歴史に興味があったから。」〔総科・男・二〇〇二〕、「広島大学の歴史に興味があったから。」〔文・女・二〇〇三〕、「なぜ東広島に移転されたのか、色々な噂があり事実を確かめたかった。」〔法・女・二〇〇三〕、「広島大学が何の目的で出来たか知りたかったから。」〔工・男・二〇〇四〕、「広大は長い歴史伝統があることを知っていたので、それらについて興味があったから。」〔教育・男・二〇〇五〕、「広島大学に去年から来ています。今建築学科に所属しているのですが、建築をやっていく上で明らかに西条より広島市内に大学があるほうがいいんじゃないかと、不満がとてもありこの授業で広島大学の歴史を学ぶことで移転の事に納得でき、今後の勉強に対する姿勢が変化すると思えたから。」〔工・男・二〇〇六〕、「中学・高校で（マ）学校の学校が設立されてから今までの歴史を詳しく学（マ）びんだ。

それがとても楽しい授業だったので、大学でも大学の歴史を知りたいと思った。「(理・女・二〇〇七)」、「広島大学の歴史が知りたいと思っていました。高等師範や文理大についてよく親が話していたので興味もあつたから受講しました。」(文・女・二〇〇八)、「学部でも社会科の教員免許の取得を目指しており、もともと歴史には興味がありました。さらにシラバスや、初回のガイダンスを聞いてみると、広島大学の歴史の中で私が興味を持っている内容も多く含まれていたので、受講を希望しました。」(総科・男・二〇〇九)、「自分は県外の人間なので広島大学の歴史などに詳しくないので、この授業を通して少しでも広島の歴史に触れることができればいいと思います受講しました。」(工・男・二〇一〇)などがある。

8 分類七「広島大学の学生だから」

「広島大学の学生だから」には広島大学構成員のひとりとしての帰属意識から必要性を覚えた主旨の回答を分類した。「広島大学の歴史を学ぶことで、広大生としての自覚を高めたかったから。」(経済・男・二〇〇二)、「自分が選んで通っている大学の歴史を知っておくべきだと思ったから。」(文・女・二〇〇三)、「自分の大学のことをよくしっておくのは良いことだと思ったから。それを知ることによって授業の受け方が変わるかと思ったから。」(理・男・二〇〇四)、「広島大学について何も知らず、このまま卒業するのであれば、この大学に来た意味がないと思い、今回の「広島大学の歴史」を受講し、自分が今学んでいる広島大学について学びたいと思ったので受講しました。」(工・男・

二〇〇四)、「自分の通っている大学のことをあまり知らないし、興味があつたから、受講しました。前回は気弱だったので、学部推奨の講義に参加していました。」(経済・女・二〇〇八)、「やはり、自分が通っている大学についてある程度知識がないとその学生として恥ずかしいと思つたから。それに、私は外国人の友人がいるので、広島大学について聞かれたときには日本人としても質問に答えられるようになりたいから。」(総科・女・二〇〇九)などがある。

9 分類八「人に説明できるようにになりたい」

「人に説明できるようにになりたい」には、「祖父、祖母などに広大的事について聞かれたときに、詳しく話せるようになりつつあったから。」(工・男・二〇〇一)、「広島大学の歴史を知ることにより自己アピールできるようになりたかつたから。」(法・男・二〇〇四)、「広島大学で大学生活を過ごすのなら、もっと広島大学について理解しておきたい。さらに、就職活動の時や、将来自分が通つた大学について尋ねられた場合に、自信を持つてはつきりと、広島大学について説明できるようにしたいと考えたため。」(総科・男・二〇〇七)、「地元の友達に「広島大学ってどんなところ？」と尋ねられ上手くこたえることができなかつたから。」(工・女・二〇〇九)、「高校の友人や後輩に広島大学を勧めたり、良い所を伝えたりしたいから。」(法・男・二〇一〇)などがある。

10 分類九「誇りを持ってそうだから」

「誇りを持ってそうだから」には次のような回答を分類した。「広島大学に入学した以上広島大学についての知識を学び誇りを持って広島大学生生活を送っていききたいから。」〔教育・男・二〇〇四〕、「自分の通学する広島大学の過去、現在および将来の見通しに至るまで学べると考え、大変興味深かったため。授業で学んだことでさらに広島大学が好きになり、広大生としての誇りを高めたい。」〔教育・男・二〇〇六〕、「私は特に思い入れもなく何となく大学生活を送っているような感じがして、これでいいものかと感じていました。少しでもいいので広島大学に誇りを持ち、他人に広島大学はこういうものであると言える人間に、せっかくなのでなりたいたいと思っていました。この講義で広島大学の歴史を知れることは、自分のその願望に直結すると思いい、受講を希望しました。病欠で一回目に出られなかったので、定員に入れてホッとしました。」〔経済・男・二〇〇九〕などがある。

11 分類一〇「シラバス等で興味を覚えた」

「シラバス等で興味を覚えた」には次のような回答を分類した。「総合科目の単位が必要で、その中で一番おもしろそうだとおもったから。」〔総科・男・二〇〇一〕、「変わった授業名だったから。」〔総科・男・二〇〇一〕、「少し興味があったから。」〔工・女・二〇〇三年〕、「前期のヒロシマ学においてこの講義に少々触れた回があり、興味を持ったから。」〔文・男・二〇〇七年〕、「どんな授業か見に行ったら興味があったので、受講したくなった」〔理・男・二〇〇九年〕、「総合科目

を選択する際にこの科目のタイトルが目に入り、他の授業とは何か根本的に違う内容ではないかと思いい、この講義を選択しました。」〔教育・男・二〇一〇〕などがある。なかには「総合科目を取る上で、シラバスを見たら、一番興味を持ったのがこの講義であったから。」〔教育・女・二〇〇九年〕という消極的選択ともとらえることができる回答も含むものの、シラバスを見たり最初ガイダンスを受けて興味を抱いて受講するようになった主旨の回答である。

12 分類一一「消極的選択」

「消極的選択」には「ほかに取りたいものがなかったから」〔法・男・二〇〇三〕、「総合科目の中で他に興味のあるものがなかったので。」〔法・女・二〇〇五〕や、「他に興味をひかれるものがなかったので。」〔経済・女・二〇〇八〕、「一回目の授業で違う科目をとっていたが抽選漏れしたため。」〔生・男・二〇一〇〕という回答が示すように、正に消極的選択として自校史教育を選んだ回答をここに分類した。また、「必修なので」といった単位取得が義務であることを記述した回答も消極的選択と見なしてここに分類した。若干ニュアンスが異なるが「総合科目の単位が必要であり、受講希望者が多いことから良質の講義と思ったから。」〔工・男・二〇一〇〕とのユニークな回答もここに含めた。

13 分類一二「その他」

「その他」には、「最近大学の決定方針に疑問を持っていた。佐竹メ

モリアルホールなどは全然必要のないものだと思うし、駐車場の狭さなどももんだいがあるとかんがえていた。しかし、藪から棒に批判ばかりしていても何も解決しないし、このまま大学を嫌いになるのもいやだった。よってこの授業を選択することで少しは大学を好きになれるかなと思いましたが「経済・男・二〇〇三」、「卒論のテーマのひとつとして「オリエンテーションキャンプ」を取り上げているので、この授業をとることで何かきっかけが見つかれば、と思ったから。」〔総科・女・二〇〇五〕、「一緒に受ける人がいたから」〔工・男・二〇〇九〕、「アメフト部に所属していて、OBの方が授業をされていると思ったから。」〔総科・男・二〇〇九〕、「はじめは違う授業を取ろうと思ったのですが、抽選にもれたので違う授業を取るにあたって、この授業を取りました。」「工・男・二〇〇九〕、「大衆に流されました。」「理・男・二〇一〇〕」などがある。

四：分類結果

前節で述べた分類に基づき一〇年間全体の受講理由をその構成比率で示したのが図二、受講理由の年度ごとのデータを示したのが表三である。

一〇年間通して多い理由は「歴史に興味があるから」と「広島大学の学生だから」の二つである。「歴史に興味があるから」には文章表現として表れるかどうかの違いで「広島大学の歴史」という風変わりな授業に興味がある、すなわち「シラバスで興味を覚えた」を含むも

表3 総合科目「広島大学の歴史」受講理由の分類別回答数（上段）と構成比（下段）

	① 楽勝と聞いた・思った	② 成績評価方法	③ 先輩・友人の推薦	④ 面白いと聞いたから	⑤ 小池教授の講義	⑥ 歴史に興味があるから	⑦ 広島大学の学生だから	⑧ 人に説明できる ようになりたい	⑨ 誇りを持ってぞうだから	⑩ シラバス等で興味を覚えた	⑪ 消極的選択	⑫ その他	⑬ 無回答
平成13 (2001)	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.3%	9 20.9%	9 20.9%	2 4.7%	0 0.0%	7 16.3%	4 9.3%	0 0.0%	10 23.3%
平成14 (2002)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 28.6%	14 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	5 17.9%
平成15 (2003)	1 1.1%	0 0.0%	2 2.2%	11 12.0%	10 10.9%	21 22.8%	27 29.3%	2 2.2%	0 0.0%	2 2.2%	2 2.2%	1 1.1%	13 14.1%
平成16 (2004)	0 0.0%	0 0.0%	1 1.4%	5 7.0%	3 4.2%	17 23.9%	19 26.8%	3 4.2%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	1 1.4%	20 28.2%
平成17 (2005)	1 1.5%	1 1.5%	1 1.5%	5 7.4%	8 11.8%	20 29.4%	17 25.0%	1 1.5%	1 1.5%	2 2.9%	1 1.5%	1 1.5%	9 13.2%
平成18 (2006)	0 0.0%	0 0.0%	3 2.5%	7 5.9%	9 7.6%	35 29.7%	37 31.4%	0 0.0%	3 2.5%	1 0.8%	4 3.4%	0 0.0%	19 16.1%
平成19 (2007)	0 0.0%	0 0.0%	2 1.8%	1 0.9%	1 0.9%	41 37.6%	44 40.4%	1 0.9%	1 0.9%	1 0.9%	1 0.9%	0 0.0%	16 14.7%
平成20 (2008)	1 0.6%	2 1.1%	6 3.4%	2 1.1%	7 4.0%	67 38.5%	63 36.2%	8 4.6%	1 0.6%	4 2.3%	1 0.6%	0 0.0%	12 6.9%
平成21 (2009)	31 5.6%	33 5.9%	30 5.4%	5 0.9%	15 2.7%	175 31.4%	179 32.1%	20 3.6%	20 3.6%	13 2.3%	2 0.4%	3 0.5%	32 5.7%
平成22 (2010)	4 0.7%	0 0.0%	39 6.8%	5 0.9%	5 6.1%	214 37.2%	184 32.0%	17 3.0%	19 3.3%	18 3.1%	8 1.4%	5 0.9%	27 4.7%

のと思われるが、受講生の三三・一パーセントが、大学の歴史に興味を示して受講していることがわかる。また、そう思う理由の恐らく根幹にかかわっているとと思われるのが、受講理由として二番目に多い「広島大学の学生だから」であろう。「広島大学に入学したものの、この学校の歴史をほとんどよく知らない。自分の母校となる学校の歴史を

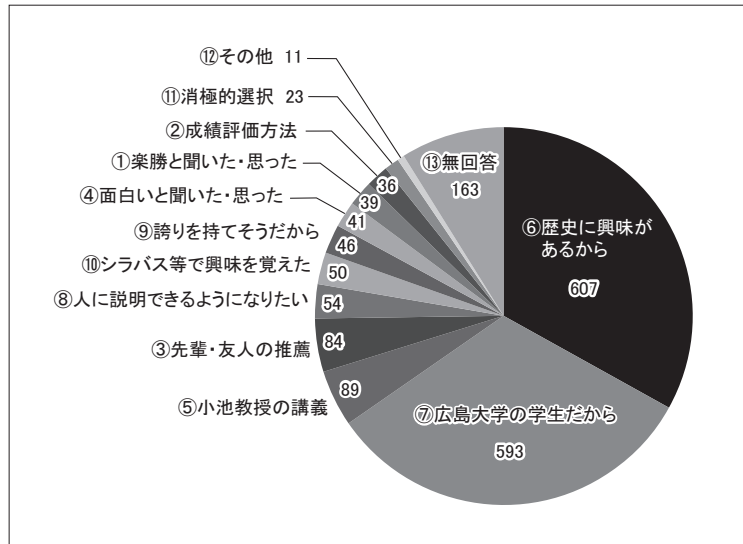


図2 総合科目「広島大学の歴史」受講理由の10年間の総計比

知らずに卒業していくのも残念であるし、興味もあったので受講した。」「経済・男・二〇〇七」、あるいは「広島大学ならではの講義だから。それに広島大学にかよっているのに広島大学のことを何も知らない自分は情けないと思ったから。」「経済・女・二〇〇八」という回答が象徴しているように、学生たちは自らが通っている大学について、自らが満足するほどの知識としての歴史を知っておらず、またそれを知る機会をこれまで得られなかった点を不満に思っていることがわかる。

初年度こそ講義名の特殊性からか、「シラバスで興味を覚えた」を受講理由にあげる学生が一六・三パーセントと多いが、その後は平均で二・七パーセントに落ち着いている。それに代わって「先輩・友人の推薦」が増加傾向で、二〇一〇年度は六・七パーセント、平均で四・六パーセントの回答である。「面白いと聞いたから」も平均で一・一パーセントで、「先輩・友人の推薦」と合わせた口コミでの伝播は一〇年間の平均で合計六・八パーセントとなる。シラバスで興味を示し、口コミで評判を確認して受講を決めるというパターンが存在し、近年は「先輩・友人の推薦」が比率を増していることがわかる。

そして「広島大学の歴史」の人気を下支えしているのが授業担当者のひとり小池教授の存在である。とくに講義初回のガイダンスを小池教授が行うようになった平成一五(二〇一〇)年から、受講者数が拡大基調となったことはその証左でもあろう。

「人に説明できるようにになりたい」も受講理由の第五位に位置している。肉親や別の大学へ行った友人に自分の大学を説明できなかったという経験が受講に踏み切らせている例があがっている。この点は受

講生が二年次生であることも影響しているものと思われる。

平成二一(二〇〇九)年の講義の巨大化とともに割合を増しているのが「誇りを持ってそうだから」である。平均で二・五パーセント、平成二二年と二二年はそれぞれ三・六パーセント、三・二パーセントが存在している。受講生が増えたことにより不本意入学生の実数が受講生の中に増えたことの影響とも考えられる。歴史を知ることと誇りを持ってそうだとこの幻想がどこに由来するのかは詳細に検討を要するが、恐らく自らの存在理由の拠り所のひとつである広島大学について、その歴史を確認することで自らの存在を確認したいということであろう。その意味では本講義の目的のひとつである「広島大学の一員としてのアイデンティティーの確立に役立ててもらおう。」が、学生に対して十分に訴求力を持つていることが確認できる。もし本講義が不本意入学生への救いとなり得るのであれば低年次で多くの学生に提供する必要性は自ずと高まるであろう。

最後に「楽勝と聞いた・思った」については、「成績評価方法」とあわせて考えてみたい。前者は「楽勝」という用語が示すとおり成績評価を侮っている姿勢を示す。後者は前節で示した回答例を見てもわかるとおり、出席を重視するという評価方法が、試験で良い成績をとったり優秀なレポートを提出したりすることが不得意な学生にとつて、自分に合っていると判断した姿勢である。基本的にはどちらも単位取得が比較的容易であるとの認識であることは同じであろう。では「広島大学の歴史」は果たして総合科目の中で単位取得が容易な授業科目なのであるか。平成一三(二〇〇一)年からの一〇年間の「広島大学

の歴史」と同時期開講していた総合科目について、合格率(単位取得率)を調べて一覧にしたのが表四である。⁸⁾「広島大学の歴史」の合格率は最高でも平成二二年の八九・五パーセント、平均で七一・二パーセントである。同時期開講の総合科目一〇年間の全講義の平均合格率は七五・九パーセントである。⁹⁾近年は中位に収まりはじめたとはいえ、少なくとも「広島大学の歴史」は前半五年間は難関講義の一つであった。これは今回算出するまで予想だにしていなかった事実であり、最終成績を判断している者としては若干基準が甘いと自覚していただけに意外でこそあった。他の総合科目との相対化によって、「広島大学の歴史」が決して「楽勝」講義ではないことが明らかとなった。

おわりに

受講理由の分析を通じて理解したことは、学生たちの問いの真摯さである。授業を提供する側としては、時間の無駄と思えるようなつまらなく意味もない授業を提供してはならないと考えているし、実際に「広島大学の歴史」がそのような授業ではないことを自負している。とはいえやはり低年次向けの教養教育の授業であること、そして選択必修科目であることから、学生たちは単純に楽勝科目として「広島大学の歴史」に興味を示し、受講しているのではないかとの疑念はこれまで払拭できずにいた。しかしながら今回の分析により、「楽勝科目」と聞いた・思った」ことを理由としてあげた者は全体の二・一パーセントに過ぎず、受講理由の多くが自身の所属する広島大学の歴史に興

表4 総合科目「広島大学の歴史」同時期開講の全総合科目合格率順位表

2001年開講科目		2002年開講科目		2003年開講科目		2004年開講科目		2005年開講科目	
科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率
1 未来型食品の創製	60.9%	工学論	29.0%	口腔の科学：食生活と全身の健康	36.9%	戦争と平和に関する総合的考察	50.0%	広島大学の歴史	54.4%
2 こころの諸相	67.9%	技術の新視点	41.0%	現代経済を考える	38.8%	地球環境問題を考える	50.0%	口腔の科学：食生活と全身の健康	57.1%
3 広島大学の歴史	68.3%	広島大学の歴史	53.3%	ペンチヤー・ビゾナス論	58.8%	ペンチヤー・ビゾナス論	58.1%	戦争と平和に関する総合的考察	57.1%
4 青い惑星	70.0%	戦争と平和に関する総合的考察	55.6%	未来型食品の創製	64.6%	ペンチヤー・ビゾナス論	61.1%	ペンチヤー・ビゾナス論	57.8%
5 演劇と映画	71.1%	演劇と映画	70.0%	地球環境問題を考える	65.0%	人間生活と生物生産	63.2%	地球環境問題-21世紀の視点から-	60.7%
6 大学論	73.3%	交通社会論	73.3%	こころの諸相	65.4%	こころの諸相	64.7%	職業選択と自己実現B	66.1%
7 水の総合科学	73.6%	青い惑星	63.2%	技術の新視点	67.9%	広島大学の歴史	67.3%	未来型食品の創製	71.1%
8 職業選択と自己実現B	74.6%	未来型食品の創製	64.3%	交通社会論	70.0%	技術の新視点	68.4%	こころの諸相	71.7%
9 実社会と法学	74.8%	現代経済を考える	66.1%	広島大学の歴史	71.2%	口腔の科学：食生活と全身の健康	71.4%	実社会と法学	74.4%
10 地球環境問題を考える	77.3%	口腔の科学：食生活と全身の健康	70.0%	口腔の科学：食生活と全身の健康	75.9%	職業選択と自己実現B	69.2%	現代経済を考える	74.8%
11 戦争と平和に関する総合的考察B	80.8%	口腔の科学：食生活と全身の健康	72.9%	放射線と自然科学	76.9%	職業選択と自己実現B	75.0%	水の総合科学	78.0%
12 交通社会論	81.8%	職業選択と自己実現B	88.9%	こころの諸相	77.5%	職業選択と自己実現B	73.0%	放射線と自然科学	78.0%
13 親族・家族から見た伝統と現在の諸相	88.9%	こころの諸相	77.4%	職業選択と自己実現B	82.3%	実社会と法学	81.0%	放射線と自然科学	81.6%
14 人間と環境	91.3%	実社会と法学	76.9%	人間と環境	82.4%	放射線と自然科学	87.5%		
15 口腔の科学：食生活と全身の健康	97.9%	人間と環境	80.0%						
16		水の総合科学	80.6%						
17		放射線と自然科学	88.9%						
2006年開講科目		2007年開講科目		2008年開講科目		2009年開講科目		2010年開講科目	
科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率	科目名	合格率
1 放射線と自然科学	52.9%	戦争と平和に関する総合的考察	38.5%	アートの世界と哲学	58.5%	アートの世界と哲学	71.7%	ペンチヤー・ビゾナス論	62.5%
2 戦争と平和に関する総合的考察	53.3%	現代社会とボランティア活動	45.5%	自然界におけるたと石	70.4%	自然界におけるたと石	72.0%	生命科学	66.7%
3 水の総合科学	53.8%	水の総合科学	57.1%	こころの諸相	71.9%	生命科学	72.3%	自然界におけるたと石	68.4%
4 ペンチヤー・ビゾナス論	54.4%	ペンチヤー・ビゾナス論	61.0%	現代経済を考える	75.0%	ペンチヤー・ビゾナス論	75.0%	文化と環境	79.1%
5 現代社会と自然科学	55.6%	口腔の科学：食生活と全身の健康	62.5%	文化と環境	77.5%	現代経済を考える	82.1%	物理科学の最前線	80.0%
6 未来型食品の創製	59.0%	こころの諸相	67.7%	ペンチヤー・ビゾナス論	77.5%	現代の物質観	82.1%	学問とのでかい	82.7%
7 広島大学の歴史	66.1%	女と男の諸相	69.2%	現代の物質観	80.0%	学問とのでかい	83.6%	現代経済を考える	82.9%
8 職業選択と自己実現	68.6%	広島大学の歴史	71.4%	現代の物質観	81.0%	文化と環境	85.0%	演劇と映画	83.1%
9 こころの諸相	70.0%	現代経済を考える	75.0%	生命科学	83.9%	女と男の諸相	85.2%	現代の消費生活	84.4%
10 地球環境問題-21世紀の視点から-	78.3%	未来型食品の創製	78.3%	広島大学の歴史	84.7%	現代社会とボランティア活動	85.7%	職業選択と自己実現-自由なキリテをサシよう-	86.3%
11 実社会と法学	79.5%	地球環境問題-21世紀の視点から-	80.0%	世界の自然と環境問題	85.3%	世界の自然と環境問題	86.2%	大地と家畜からのめぐみ (農馬体験)	86.7%
12 インターネットとキャリアデザイン	80.0%	アートの世界と哲学	80.6%	国際協力を考える	85.9%	現代の消費生活	86.6%	人間と運動	87.4%
13 口腔の科学：食生活と全身の健康	81.3%	現代社会とボランティア活動	81.3%	職業選択と自己実現	87.7%	演劇と映画	87.1%	広島大学の歴史	89.5%
14 現代経済を考える	82.1%	インターネットとキャリアデザイン	92.0%	現代の消費生活	88.0%	職業選択と自己実現-自由なキリテをサシよう-	87.1%	国際協力を考える	94.1%
15		現代社会とボランティア活動	92.0%	大地と家畜からのめぐみ (農馬体験)	88.2%	世界の自然と環境問題	88.7%	ヒトと微生物の間わり	94.8%
16		放射線と自然科学	92.3%	ヒトと微生物の間わり	89.1%	人間と運動	89.5%	世界の自然と環境問題	95.3%
17		職業選択と自己実現	92.6%	学問とのでかい	91.2%	親族・家族から見た伝統と現在の諸相	93.3%	現代社会とボランティア活動	96.2%
18				演劇と映画	92.3%	国際協力を考える	94.4%	広島島キャンパスの自然環境管理	96.4%
19				現代社会とボランティア活動	94.4%	ヒトと微生物の間わり	93.7%	キャリアデザイン概論	100.0%
20				インターネットとキャリアデザイン	95.1%	広島島キャンパスの自然環境管理	95.1%	ヒトと微生物の間わり	100.0%
21				ヒトと微生物の間わり	95.8%	インターネットとキャリアデザイン	97.5%	キャリアデザイン入門	100.0%
22				キャリアデザイン	99.1%	インターネット科学入門	100.0%		
23					100.0%				
24									
25									

味を持ち、大学構成員の一員としての自身のあり方を確認するために受講していることが明確となった。そして自身の所属する、あるいは将来的には母校となる広島大学について、「人に説明できるようにしたい」と思っているし、「誇りを持ってさうだから」と、歴史を学ぶことを選択しているのである。ある学生はこう述べる。

広島大学に在籍していながら広島大学についてほとんど何も知らないことに気付いた。他大学の友人と各々の大学を比較し合う時、自分は世間一般の広島大学のイメージしか持っていないことに気付いた。ただ受験業界のものさしだけで広島大学を評価するのは品がないので、もっと広島大学について語れるようになりたいと思った。〔文・男・二〇〇八〕

「最近の学生は」などと、自らの学生時代の経験を延長して現代の学生の不真面目さや思考力の危うさを嘆く教員は襟を正すべきであろう。個別の学生の志向性を正確に捉えらるとともに、学生集団全体を見すえた理解が、広島大学が掲げる理念五原則のひとつ「絶えざる自己変革」の上で必要であることを改めて認識した。

今回分析した受講生たちの受講理由に対し、我々が「広島大学の歴史」を通じて十分にその期待に応えられているかどうか、講義テーマごとや閉講後のアンケートの分析については稿を改めて述べることにする。

注

(1) 山口拓史「国立大学における自校史教育の意義―名古屋大学を事例として―」『名古屋大学史紀要』一一巻、二〇〇三年、九一―一二六頁、参照。山口は平成八(一九九六)年に学習院大学において自校史関連講義が実施された事実を述べるものの、独立した講義形態として実施された自校史教育として、明治大学と早稲田大学とを挙げている(九四頁)。

(2) 大川一毅「全国大学における自校教育の実施状況―二〇〇八年度「自校教育実施状況調査」をふまえて―」『大学教育学会誌』第三一巻第一号、二〇〇九年五月、一七二―一七八頁、参照。

(3) 「自校史教育」をキーワードに検索を行うと、平成二三(二〇一一)年二月一四日の時点で次の論文等が出力された。井上琢智「いかにして大学の「建学の精神」を伝えるか―「関学」学の位置づけと意義(自校史教育を考える)―」『日本大学史紀要』(一一)、一九三―二二一頁、二〇〇九年三月。大島宏「授業探訪自校史教育としての「立教学院と戦争」」『大学教育研究フォーラム』(九)、九九―一〇三頁、二〇〇四。折田悦郎「大学文書館の設置と「自校史」教育」『神戸大学史紀要』七、二六―四九頁、二〇〇七年三月。小宮山道夫、小池聖二、西原利典、宮本浩治「自校史教育が高校生の進路選択に及ぼす影響に関する研究(一)：進路指導の改善と大学に関する情報提供の充実」『学部・附属学校共同研究紀要』三五、二九七―三〇六頁、二〇〇七年三月。小宮山道夫、小池聖二、西原利典、宮本浩治「自校史教育が

高校生の進路選択に及ぼす影響に関する研究(二)：進路指導の改

善と大学に関する情報提供の充実」『学部・附属学校共同研究紀要』

(三六)、四八三―四九二頁、二〇〇八年三月。小宮山道夫、小池聖一、

西原利典、宮本浩治「自校史教育が高校生の進路選択に及ぼす影響に

関する研究(三)：進路指導の改善と大学に関する情報提供の充実」『学

部・附属学校共同研究紀要』(三七)、三六五―三七四頁、二〇〇九年

三月。島方洗一「大学における「自校史」の持つ意義(自校史教育を

考える)』『日本大学史紀要』(一一)、二三一―二四二頁、二〇〇九年

三月。豊田雅幸「立教大学の歴史自校史教育の持つ可能性(授業探訪

特集立教科目(その三)大学)』『大学教育研究フォーラム』(二三)、三五

―三八頁、二〇〇八年。豊田雅幸「立教大学」立教大学における自校

史教育の成果と課題」(授業探訪特集自校教育)今後の課題と展望」

『大学教育研究フォーラム』(一四)、八三―八六頁、二〇〇九年。村松

玄太「近現代史と自校史教育」各大学における実践を踏まえて(自

校史教育を考える)』『日本大学史紀要』(一一)、二二三―二二九頁、

二〇〇九年三月。山口拓史「国立大学における自校史教育の意義：名

古屋大学を事例として」『名古屋大学史紀要』一一、九一―一六頁、

二〇〇三年三月。湯川次義、久保田英助、野口穂高、大岡紀理子、大岡

ヨト「自校史教育」に関する基盤的研究」『早稲田教育評論』二四(一)、

一六九―一八八頁、二〇一〇年三月。

(4) 広島大学教養的教育委員会教育方法研究小委員会編『教養的教育実施

自己点検・評価報告書』二〇〇一年、一一頁。広島大学五〇年史編集

委員会・広島大学文書館編『広島大学五十年史 通史編』広島大学、

二〇〇七年、四〇六頁、参照。

(5) 広島大学編『教養的教育改革実施要綱』一九九六年、一六頁。

(6) 広島大学教養教育本部提供の統計データに基づき小宮山が算出した。

科目名末尾の()内の数字は受講者数を表す。

(7) 広島大学文書館大学史資料室編『広島大学自校史教育実施報告書

二〇〇一―二〇一〇(上巻)』広島大学文書館、二〇一一年三月発行。

二〇〇一年から二〇〇五年までのデータを中心に掲載している。

(8) 広島大学教養教育本部提供の統計データに基づき小宮山が算出した。

合格率は単位取得者数を、受講人数から単位不要履修生数を減じた人

数で除して算出した。

(9) ただし、各総合科目の合格率の平均であり、総合科目受講者全体の合

格率ではない。受講者全体では、受講者数三五、五六六人、単位不要

者数二六三人、合格者数二九、九二人のため、合格率は八四・八パー

セントとなる。

(こみやま みちお・広島大学文書館)